

慰安婦問題

# 朝日の大罪



かたやま・さつき 1959年生まれ。82年、東大法学部を卒業し、大蔵省入省。主計局主計官や国際局開発機関課長などを歴任し、2005年退官。同年、衆院議員に初当選。経産政務官、党広報局長を歴任する。10年に参院議員に当選。第2次安倍晋三内閣の発足に伴い、総務政務官に。現在、党環境部会長。

## 自民党片山さつき参院議員

2011年12月、ソウル市にある在韓日本大使館の正面に、慰安婦の像が建てられた。その一報を聞いて私は急ぎよソウルに飛び、日本の国会議員として初めて像を視察した。

あの嘘を固めて造られた塊を見た瞬間を、私は決して忘れることができない。胸が張り裂けんばかりの無念さがこみ上げて、まるで巨大な怪物が襲ってくるかのような恐怖さえ感じた。

そして現在、米国で慰安婦の碑や像が7つも設置されている。「日本帝國軍により、数十万人の女性が性奴隷にされた」という事実無根の文字が刻まれ、言われのない汚名を全米に巻き散らしている。これらの原因を作ったのが朝日新聞だ。何と罪深いことだろうか。

その朝日が5日、慰安婦報道について検証記事を掲載し、吉田清治氏に関する16の記事を取り消した。吉田証言については20年前には裏付けのないものと指摘され、本人も生前に「つくりごと」と認めていたにもかかわらず、30年以上も放置していたわけだ。

そこには自社の報道姿勢に対する真摯な反省は見られず、長年の虚偽報道についての国民への謝罪もなかった。

しかも、「女子挺身隊」を「慰安婦」と混同する、致命的なミスを犯した植村隆元記者については、何もお咎めなしだ。自社の記者が書いた記事を否定すると、報道機関としてのレゾナードール(存在価値)を失うのかもしれないが、そんなレベルの問題ではない。

そもそも、記事を掲載した段階で、読者からクレームが来なかったのか。当時はまだ、女子挺身隊の経験者も多く、記事の内容に疑問を持った人もいたはずだが、あえてその声を無視していたのか。また、混同は単なるミスなのか、それとも慰安婦の数を数十万人規模までに増すための意図的な操作なのか、これらについて明らかにする必要はある。朝日にただ、「謝罪しろ」というのは簡単だ。しかし、それだけで日本人が失ったものを取り戻せるものではない。

# 虚偽報道の事実、自ら

# 関係機関に文書で説明を

朝日によつて棄損された国家の威信、日本国民の

名誉を取り戻すことだと思ふ。それには、まず朝日自身が、慰安婦決議を行った各国国際機関や、各国、各自治体、現地の報道機関に対し、自らが虚偽報道を行ってきたという事実を文書でもって説明すべきだ。

朝日の動きが悪ければ、外務省が代わって行くべきだ。在外大使館がその国の言葉で文章を作り、発信してもいい。朝日に傷付けられたものは非常に尊く重いものだが、われわれなら必ずそれを回復することができらう。

(取材・構成 安積明子)

何より大事なことは、朝日によって棄損された国家の威信、日本国民の

30年以上放置、反省見られず

「謝罪しろ」というのは簡単だ。しかし、それだけで日本人が失ったものを取り戻せるものではない。

朝日によつて棄損された国家の威信、日本国民の